

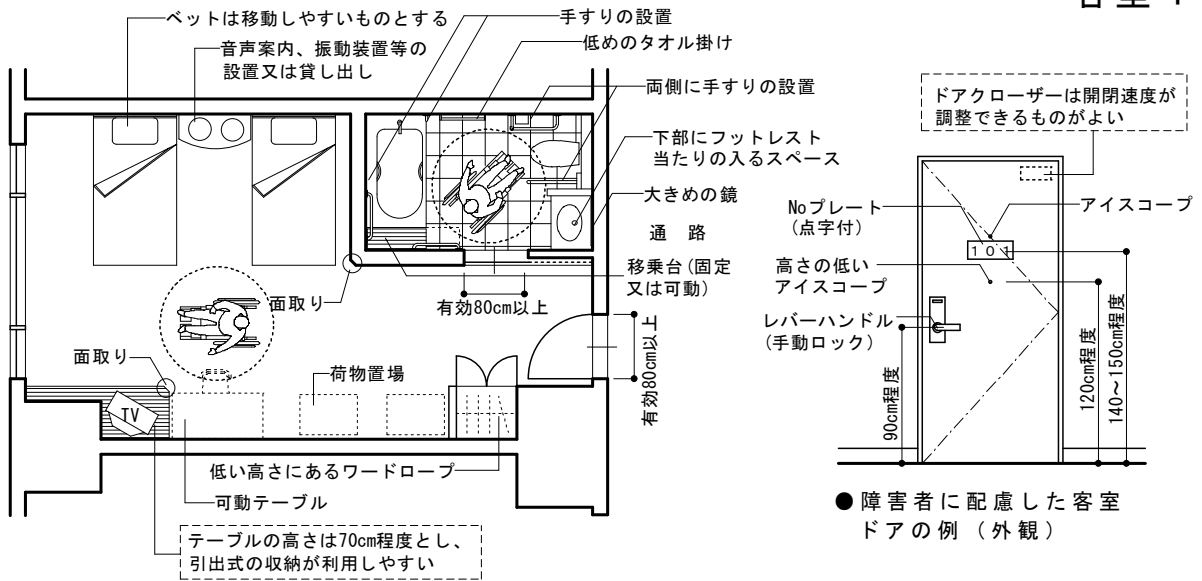
2. 9 客室

◆設計の考え方◆

- ・高齢者・障害者等が、障害のない人と同様に外出・旅行等の機会を享受するための環境の整備が求められている。
- ・宿泊機能を有する建築物においては、高齢者・障害者等が円滑に利用できる客室を設けることが必要である。
- ・様々な客室のバリエーションを備えることによって利用者を拡大できる。設計にあたっては、宿泊施設の運営やサービス等ソフト面での対応を考慮することが重要である。
- ・建物の整備を行ううえで、具体的なサービスや人的な対応と建物の両面を考慮しつつ設計に当たることが重要である。

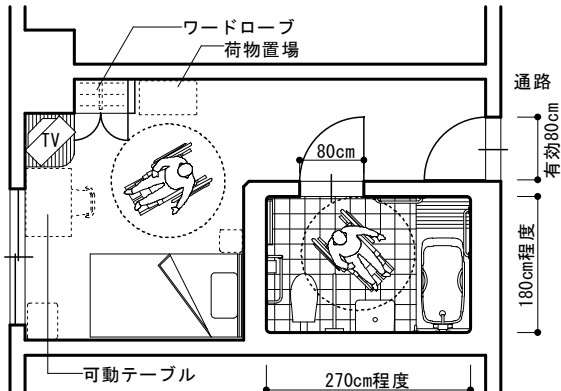
客室 1

● ツインルームの例

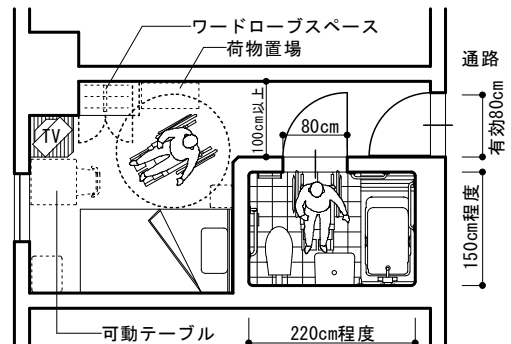


● 障害者に配慮した客室ドアの例（外観）

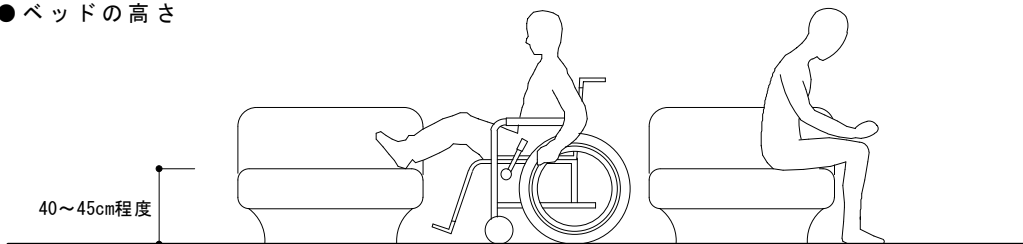
● シングルルームの例 1



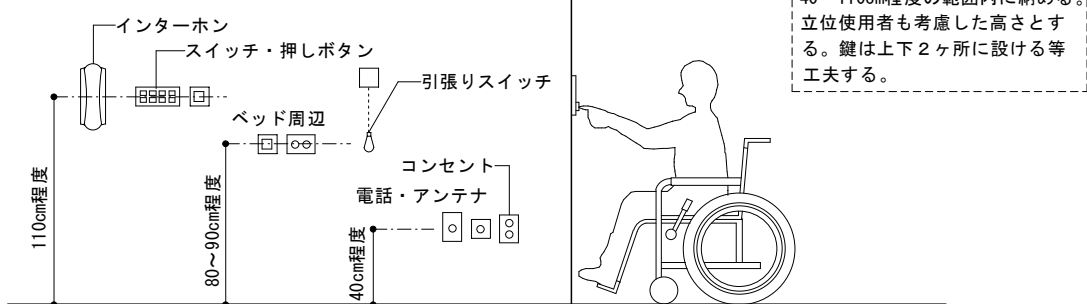
● シングルルームの例 2



● ベッドの高さ

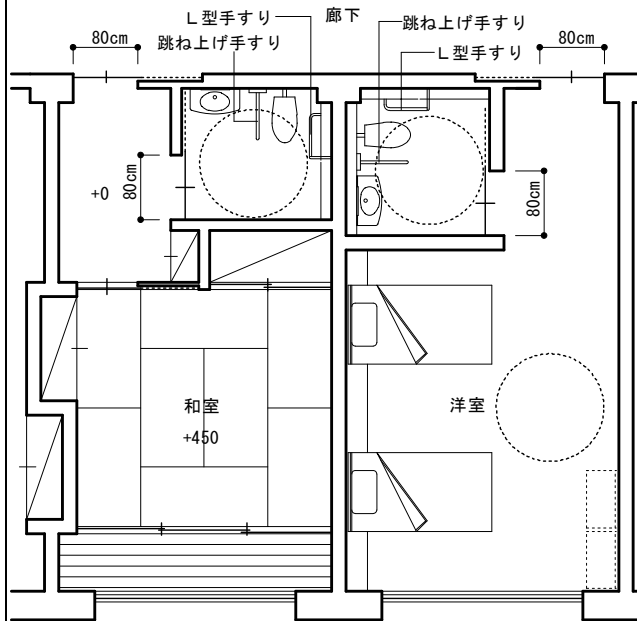


● コンセント、スイッチの高さの例



客室 2

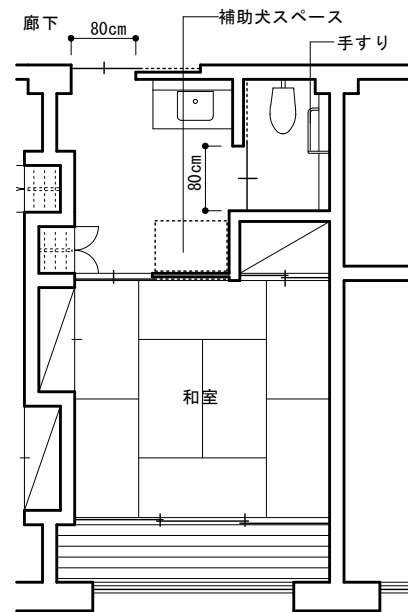
● バリアフリー客室の例



ベランダ

・共同浴場においてはバリアフリー対応を行い、客室内では、障害者対応の便房のみを設置した例

● 補助犬スペースを設けた和室の例



ベランダ

・共同浴場においてはバリアフリー対応を行い、客室内では、障害者対応の便房のみを設置した例

● 左右両勝手タイプの客室を設けた例

